

1. 活動の概要

6月28日(水)、松江市立竹矢小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。まずは職員が竹矢小周辺の遺跡についてパワーポイントを使って説明しました。竹矢小の近くに出雲国の政治の中心地である国庁があったこと、その近くには意宇郡家や軍団、駅家が集まっており、まさに今の島根県庁周辺のような感じだったということを知ってびっくりしたり、感心したりしていました。また、聖武天皇がなぜ国分寺や大仏を作ろうと考えたのか、大仏の大きさにはどんな意味があるのかも解説し、大仏パネル体験への導入としました。

次に、大仏パネル体験を行いました。もう一つのクラスより早く完成させようと意気込んでおり、全員で協力して取り組んでいました。それでも、なかなか思うようにそろえることができません。予定時間を超えて、ギリギリまで作業してくれました。完成したパネルを2階から眺めたり、大仏の上に乗って写真を撮ったりして、実際の大きさを体感していました。

2. 活動の様子

1)竹矢小周辺の歴史について知る



「竹矢小がどこかわかるかな？」



「ここが出雲国の中心地！」

2)古代体験活動～大仏パネル～



パネルづくりスタート！みんな急げ



最後の調整に大苦戦



大仏に乗った気分はどう？

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・本物の奈良の大仏を見てみたい。
- ・大仏を作って上から見たときにとても大きくて、それほど不安があり平和を願っていたんだと思った。
- ・小学校の近くに昔の高速道路があったことが心に残り、家族にも教えたい。
- ・今は田んぼの場所が、1300年前は出雲国の中心だったことに驚いた。

2)担任の先生から…

- ・地域の歴史について話していただいたことで、子どもたちの地域に対する見方が変わり始めた。
- ・これからの学習につながる時間となった。
- ・大仏づくりをすることで、大仏の大きさに触れ、驚きをもって学習できたと思う。

3)古代文化センターから

小学校ではまだ歴史の授業に入っていないとのことで、説明を理解してもらえるか少し心配していました。ただ、1300年前のこととはいえ自分たちが住んでいる地域の歴史ですので、児童も時折メモをとりながら真剣に話を聞いており、こちらの質問にも積極的に反応してもらえました。竹矢小周辺が当時は出雲国の中心地だったという話は、今の状況を知る子供たちにとっては驚きだったようです。

大仏パネルでは全員が積極的に作業を行っていました。パネルを集める人、パネルを並べる人、ズレを調整する人など自然と役割分担ができており、また「下のパネルから直していこう」と声をかけあう場面もあり、協力して作業している姿が印象的でした。また、ある程度形が整ってきても「これでいいや」とならず最後まで調整を続けており、とても感心しました。完成したパネルを2階から眺めてその大きさを感じてもらいましたが、大仏がなぜ作られたのか、これほどの大仏を作ろうと思った奈良時代はどのような時代だったのか、考えてもらうきっかけになったのではないのでしょうか。いつか本物の奈良の大仏をみた際に、今回の活動を思い出してもらえれば幸いです。